



長沢英次撮影

「意欲のある人求めます。ただし年齢制限あり。60歳以上の方」  
家電、自動車などの中堅部品メーカー・加藤製作所(岐阜県中津川市駒場)がこんな募集広告を新聞に折り込み、同市で配ったのは01年だった。ユニークなシルバー雇用の発案者が加藤さんだ。  
当時は専務でした。毎月の経営会議では売り上げや利益がどうだ、といった話が尽きない。取引先からはコストダウンの要請がある。どうしたものかと悩んでました。年間110日の休日があります。ものづくりは機械が動いてナンボ。機械稼働率を上げて無駄を排除しないと利益につながらない。そこで休日を目をつけたんです。土曜・

### 加藤製作所社長 加藤景司さん ①

日曜にだれに機械を動かしてもらおうか。そう考えていた時に、市の調査で、働きたいけど働けない高齢者が大勢いることを知りました。  
募集の条件は「時給800円以上。勤務日は土・日曜、祝日」です。応募が殺到しました。当初は一人ずつ面接しようと思っていたんですが、応募者が100人以上になってしまい、とても追いつかない。集まってもらい、求人説明会みたいになりました。元の職業は大工さん、魚屋さん、JRマン、証券マンなどいろいろでした。60、80代の男女15人を採用してスタート。最高齢の80代の女性はシルバー社員の世話をするために採用しました。お茶をいれたりするのを正社員にさせるわけにはいかない。高齢者は高齢者

がサポートするのが最適と思っただけです。ぼくらには分からないことに気がつくので、と思います。  
シルバー雇用は決して慈善事業で始めたのではありません。発注元の大企業からの値引き要請に応え、なおかつ利益を出すために、休日も稼働する「コンビニ工場」に、しかも人件費負担を抑え

# げんき白書

## 高齢者活用で業績

一石三鳥なんです。一つは高齢者の働く場をつくり、生きがいを提供する。年金のほかに給料ももらえる。もう一つは地域にとっていい。元気な高齢者は大勢いるんです。地域の雇用を創出することができます。  
そして会社にとってもいい。当時は年商15億、16億円でした。バブル経済が終わって売上げは減った。それなりに苦しんでいました。シルバー雇用の人たちは人件費が安く済む。15人雇っても正社員1・3人分です。そういう思惑もかなりありました。シルバー社員受け入れのための改善も怠らなかつた。高齢者雇用の助成金を活用してV工場内の段

かとう・けいじ 1961年、岐阜県中津川市生まれの45歳。愛知工業大を卒業し、岐阜車体工業に3年間勤めた。三菱電機に移り、シンガポールと米国勤務を経験した。88年に加藤製作所に入社。専務を経て、04年5月に4代目社長に就任した。妻の実家である七笑酒造(長野県木曾町)の取締役を兼任しており「日本酒は大好き」。家族は妻と高校3年の長男、中学3年の次男、小学4年の長女。中津川市在住。

最初は高齢者15人に正社員を7人つけました。やっぱり怖いですよ。未経験者ばかりですから、どんな物ができるかわからない。けががあってもいけない。それが数カ月たつと正社員は2人しかいらなくなりました。シルバーのみなさんは「働く」ということでは、ぼくらよりベテランです。ペースはできています。聞き手・長沢英次



シルバー雇用の取り組みは折り込みチラシから始まった  
差をなくす▽暖房を完備する▽照明を明るくする▽畳敷きの休憩室をつくる▽。シルバー雇用は会社の業績にも貢献。昨年度の年商は19億円近くに近づいた。